資料2-3

令和2年度【第2回福島県総合教育会議】
「福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成」
取り組みに関するご報告

KATARiBA
Shape the Future
認定NPO法人カタリバ
福島県立ふたば未来学園高校
学校支援統括コーディネーター
長谷川勇紀
2021年2月25日

©2021 認定NPO法人カタリバ

①2018年8月の総合教育会議のご報告から、2年半の歩み

KATARiBA
Shape the Future

- 2019年4月、放課後の居場所である**「双葉みらいラボ」**はふたば未来学園の**新校舎内に移転**されました。
- 同時に、**カフェふぅ**もスタートし、**地域と学校との協働拠点**として、生徒の学びを地域一丸となって支えています。
- 生徒の**「マイプロジェクト」**（高校生自らが立ち上げるプロジェクト）は、2018年8月の報告時の**約3倍（約200プロジェクト）に増え**、実践から学び、自己肯定感を高め、福島の未来を想う生徒の姿は当たり前のものになってきました。

▼生徒×先生×地域の大人の打ち合わせの様子

▼「マイプロジェクト」に取り組む生徒の様子と一覧掲示

▼2018年8月の総合教育会議でいただいたアドバイス

「ふたば未来学園で得られた経験、財産を点としてではなく、福島県全体で共有出来る仕組みが出来ればすばらしい」

- ✓ 「福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成」の推進の中で、ふたば未来学園の取り組みをどのように横展開していくかを現場の先生たちと議論を開始（トップリーダー育成校「磐城高校」「原町高校」「相馬高校」と協議）。
- ✓ １つの高校単独の取り組みから、地域全体で「未来創造型教育」を推進していくことを目指す。（「点」から「面」の取り組みへ進化させる）

©2021 認定NPO法人カタリバ

②2021年1月、初めてのマイプロジェクト福島県大会の開催

KATARiBA
Shape the Future

- 3年かけ、県内の**「全国高校生マイプロジェクトアワード」**（全国の高校生たちがマイプロジェクトを発表し合う学びの祭典）の**エントリー数は増え続け**ました（17年度：9プロジェクト,18年度：12プロジェクト,19年度：23プロジェクト）。
- そして、2021年1月31日、これまで東北6県の「東北大会」として開催されてきたアワードが、**初めて福島県単独の大会**として、**全県12校37プロジェクト52名の高校生がエントリー**し、**100名を越える応援者**と共に開催されました。

▼12校37プロジェクト52名の高校生が集う

※感染症対策のためオンラインにて実施

▼高校生の応援サポーターは総勢21名
メッセージを送る観覧者は86名が参加

▼卒業生たちも応援サポーターとして参加

ふたば未来卒　安積高校卒　白河高校卒　福島西高校卒

✓「福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成」対象校のエントリー数は、**計16プロジェクトで全体の約半数**。
- 「磐城高校」（トップリーダー人材育成校）・・・計3プロジェクト
- 「原町高校」（トップリーダー人材育成校）・・・計6プロジェクト
- 「ふたば未来学園高校」（先行実施校）　・・・計7プロジェクト

※もう１つのトップリーダー人材育成校「相馬高校」は今回はエントリーせず、校内発表会にて発表

©2021 認定NPO法人カタリバ

③福島イノベ構想を担う人材育成から生まれたプロジェクト

KATARiBA
Shape the Future

- 震災から10年が経ち、「地域復興のために貢献したい」という復興・創生に関するプロジェクトだけではなく、高校生自身の**興味関心や得意領域、身近な課題意識からスタートするプロジェクト**が増えてきています。
- 福島の次の10年に向け、自らの可能性を閉じず、創りたい未来に向かって、**高校生たちの歩みが加速**しています。

▼トップリーダー人材育成対象校のエントリープロジェクト一覧

NO	プロジェクト名	学校名
1	アイドルをツールとした地域活性化プロジェクト	磐城高等学校
2	農薬が与えるいわきの水田への害	
3	磐城高校バリアフリー化計画	
4	見た目も満足感も変えない減塩食	原町高等学校
5	公共トイレから考えよう、ジェンダーフリーな私たちの未来	
6	社会から見たアニメの存在	
7	発見！こんなところにもプラスチック	
8	飛行機の形状の最適化について	
9	虫たちは何の光がお好き？ ～LEDと懐中電灯～	
10	炒り豆に花が咲く ～地域と心に花咲プロジェクト～	ふたば未来学園高等学校
11	富岡さくら復興プロジェクト ～届け！さくらタピオカ～	
12	正しい情報を 私の言葉で	
13	献血で変えられる ～「地域」×「高校」×「献血」～	
14	障がいや難病と共に学校や社会でみんなが笑顔で過ごすためには	
15	未来プロジェクト ～守りたい大切なもの～	
16	Let's cheer up ふたば!!	

▼興味関心や身近な課題を軸にしたプロジェクト例

● 「アイドルをツールとした地域活性化プロジェクト」

アイドル産業の市場の仕組みを分析。幅広い年齢層に対して街頭調査を行い、大手人気アイドルとご当地アイドルの違いと強みを生かした地域活性化・ビジネス案を立案・提案した。

● 「見た目も満足感も変えない減塩食」

「高血圧な母に美味しく満足感のある減塩食と摂ってもらいたい」思いからプロジェクトがスタート。先生や栄養士にアドバイスをもらいながら、2週間毎朝お弁当をつくり、母に食べてもらった。

©2021 認定NPO法人カタリバ

④プロジェクト輩出の背景

KATARiBA
Shape the Future

- 各校の高校生たちの躍進には、これまで「点」で行われていた講演会や先進研究施設見学等を、**教育課程（総合的な探究の時間）の中に明確に位置付けた**という背景があります。
- 探究的な学びを、教員・イノベ推進機構・地域の応援者の三位一体体制で支えることで、**磐城高校は2年生：約280プロジェクト、原町高校は2年生：約140プロジェクト、相馬高校は2年生：約100プロジェクトが学校内で生まれました**。

▼磐城高校　2学年「地域探究」年間カリキュラム

日程	第1回（4/17） 2コマ	第2回（7/15） 4コマ	第3回（7/30） 4コマ	夏季休業
授業テーマ	キックオフ授業	探究のタネ探し	探究テーマ設定 ・調査のための実践計画	・設定した課題に対する現状・ニーズ調査（フィールドワーク） ・浜通りイノベ地域ツアーへの参加
実施内容	探究思考サイクルの練習 探究テーマ設定	探究のタネを広げる・しぼる 探究テーマの問いを出す	WillとNeedの接続 調査のための実践計画	
授業の様子				

日程	第4回（8/28） 4コマ	第5回（9/30） 4コマ	第6回（10/16） 3コマ	11月以降の自主活動
探究テーマ	プロジェクト共有会	全体プレゼンテーション	代表プレゼンテーション	・更なる地域での実践 ・マイプロジェクトアワードへの出場 ・その他、外部コンテストへの出場
実施内容	夏休みの課題共有 探究ゼミ分け	プレゼンテーション準備 全体プレゼンテーション	代表プレゼンテーション 地域の大人からの講評 全体振り返り	
授業の様子				

©2021 認定NPO法人カタリバ

⑤生徒がマイプロジェクトの学びから得たもの

KATARiBA
Shape the Future

- マイプロジェクトという探究的な学びの授業を経験した磐城高校の生徒たちは、そのテーマに関する、**「地域の理解度・興味関心度合い」**、また、**「将来の地域に対する関わり方」**は、**どの数字も大きく伸びていました**。
- 自分事のテーマで探究した結果、地域に対しての**身近さ**を感じ、より**愛着**を持って、**将来、何かしらで関わっていきたいという想いを持つ生徒が増えてきています**。

▼「今回調査したテーマに関する、地域・社会についての理解度」
（「知っている」「どちらかと言えば知っている」の割合）

事前：**31%** → 事後：**88%**（**+57%**）

▼「今回調査したテーマに関する、地域・社会に対しての興味関心」
（「高い」「どちらかと言えば高い」の割合）

事前：**54%** → 事後：**86%**（**+32%**）

▼「将来の、地域・社会や復興・発展に対しての関わり方」
（「積極的に関わりたい」「どちらかと言えば関わりたい」の割合）

事前：**62%** → 事後：**86%**（**+24%**）

【授業の感想】（抜粋）

- ✓ 自分が地元について**いかに無知であったか理解**した。いわき市について**ますます知りたくなった**。
- ✓ 自分が何かをしようと思い行動に移せば、**地域や社会は少しづつ変わるかもしれない**と思うようになった。
- ✓ 前までは、就きたい職業の関係もあり、漠然と都会に行っていわきには戻ってこないのかなぁと考えていたが、授業を通して、**将来いわきに戻ってきて、地域を活性化させられるようなことをするのもいい**なぁと思うようになり、**選択肢が増えた**。
- ✓ 一から全部自分で作るということを**最初は面倒くさく思っていた**のですが、この授業を通して自分で研究の形を作り上げることに楽しさややりがいを感じ、**研究するということの面白さに目覚めました**。

©2021 認定NPO法人カタリバ

⑥福島イノベ構想を担う人材育成の３つの課題

KATARiBA
Shape the Future

- 今後、「福島イノベーション・コースト構想を担う人材育成」を更に発展させていくためには、**下記の3点が課題**です。
- **学校・地域・社会が一丸**となって、**高校生の学びを支えていく**ことが重要だと思われます。

１、授業「総合的な探究の時間」の更なる磨き込み

a.カリキュラムの年間設計、イノベプログラムとの連携・協働
b.教員の探究指導力の向上、指導体制の整備
c.学校間連携による探究の協働実践、知見の交換
（浜通り地域から、中通り・会津地域へ）

２、探究的な学び「マイプロジェクト」を支える人的ネットワークの強化

a.社会教育の場や携わる人材との連携・協働
b.地域との協働による実践的な学びの機会の確保

３、福島県中に応援の輪を広げるための、活動の発信・周知・協力

a.失敗を許容し、高校生が安心してチャレンジできる土壌をつくる
b.学校に教育を丸投げしない、福島版「学びの生態系」構築

©2021 認定NPO法人カタリバ